

短期留学報告書

群馬大学大学院 工学研究科 電気電子工学専攻
修士 1年

新井 美保

私は 2011 年 9 月 11 日から 23 日まで、アメリカへ短期留学に行きました。前半一週間では UCLA(University of California, Los Angeles)に行き、私の共同研究者である Asad.A.Abidi 先生のもとで研究をさせていただきました。Abidi 先生と間近で議論し、直接意見をもらうことは日本でできない経験であり、とても刺激的でした。また、学科長を始め、著名な先生方との対談、研究室や校内見学等、我々に対して多くの配慮をして頂き多くの経験をする事ができました。研究室や校内見学では、優れた設備や充実した環境を目の当たりにし、日本の大学との差を感じました。特に、校内にゲームセンターがあることには大変驚きました。UCLA のように開放的な環境で自分を自由に表現し、勉強だけに縛られるのではなく、のびのびとした研究生活を送ることも、研究者として大切なことなのかなと思いました。

UCLA 滞在期間中には大手企業へ見学をすることができ、そこでは徹底した秘密保持対策をとっていることを知りました。つまり、世界を代表するほどの企業は情報漏えいに対して大変シビアであり、必要以上に自分の手の内を見せないということも、経営戦略の一つとして重要なことなのだと学びました。

短期留学後半の一週間は CICC(Custom Integrated Circuits Conference)に参加しました。CICC では様々な国籍の人々が回路というたった一つのキーワードをもとに、どんどん交流を広めていく姿を見ました。その姿を見ていると、国籍や文化などは関係なく何か一つの共通点さえあれば、人はこんなにも広く、そして深く関わり合うことができるのだと感銘しました。

二週間の短期留学は、多くの経験をする事ができ、とても価値のある時間となりました。二週間を通して、私自身の語学力の無さを痛感しました。とっさに話しかけられると戸惑ってしまい、スピーディーなやり取りは聞き取ることが難しく、発音が悪くて理解してもらえない。とにかく自分の語学力の低さが、今回の短期留学でもっとも障害になった点だと思います。そのため英語を勉強する機会をもっと増やそうと思いました。そして他の人に頼らず、自ら外国の人と交流できればと思います。

Abidi 先生のもとで過ごした一週間はとても刺激的で、大変貴重な時間を過ごすことができました。もし英語を完璧に理解することができ、もし一週間だけでなく長期的に滞在することができたなら、私は更に前進することができたのではないかと思います。今回の短期留学で経験した悔しさを今後の課題とし、精進していきたいと思います。そしていつか、Abidi 先生のような凄い先生の下へ長期留学し、先生とともに研究を行えたらどれだけ素敵だろうと思います。

今回の短期留学を通して、語学力の必要さ、多国籍の人々に関わる素晴らしさ、そして留学への興味関心がより一層深くなりました。

短期留学報告書

Behzad Razavi 先生との対談



Asad.A.Abidi 先生

